

障害のある幼児をもつ親への支援
～交換ノートを通して母親を理解する～

溝口綾子

キーワード：障害児 保護者〈母親〉 保育者 家庭 幼稚園

本論は、幼稚園に入園している障害のある子どもを持つ親と担任との交換ノートを通して、その親の抱いている様々な思いに目を向け、障害のある子どもとともに、豊かな生活ができるための保護者支援とは何かについて探ったものである。

障害のあるなしに関係なく子どもの保育を考えると、その子どもの保護者の存在は切り離せない。それは、子どもの生活が幼稚園の保育場面だけではなく、ほとんどの場合、「家庭」が生活の基盤となっているからである。したがって、その家庭における子どもや保護者を支援するということは、その生活のほとんどを支えていくことにほかならない。しかし、今日の子育ての社会状況は必ずしもそれが機能しないことが指摘されている。子育てしにくい社会状況に加え、子どもに障害があるがゆえに日常の生活がうまく展開されていない親への子育て支援をしていくことは、障害のある子どもを取り巻く環境をいかに保障していくかということである。

本論では、交換ノートの事例を5つの項目で分析し考察を加えた。その結果を次のようにまとめた。①親の障害受容に至る過程 ②親の子育て感情 ③しつけにおける悩み ④我が子への発達期待 ⑤就学への不安

統合保育を実践している保育者にとって、障害のある子どもの理解と援助は必至である。同時に、その親をどのように理解し支援していくかということが大切である。保育者側からの一方的な働きかけではなく、「共に学びあう」という関係性を築いていくことが必要である。その際、保護者の満足だけでなく障害のある幼児が心身ともに健康に育つことを念頭においた支援が大事である。そのためには障害に対する正しい理解と、指導の意図性や方向性を明らかにした保育、関連施設との連携が重要である。